

調査結果のうち、特に重要と思われる項目について抽出し、記載しています。

なお、平成29年に行った同調査と比較し、それぞれの項目において大きく傾向や割合が変わらないことが分かりました。

### I 調査の概要

対象者：18歳以上の奈良県民3,500人

※市町村別人口比率割当をしたうえで、市町村の管理する選挙人名簿より等間隔抽出法により抽出

調査時期：令和4年10月21日～11月7日

回収数：817通（回収率：23.3%）※暫定：11月7日回収まで

回答者の性別：男性262名（32.1%）、女性541名（66.2%）

回答者の年代：20歳代 41名（5.0%）、30歳代 64名（7.8%）  
40歳代 109名（13.3%）、50歳代 146名（17.9%）

### II 調査結果

#### <DVに関する意識>

○「配偶者等からの暴力」（DV）の認知度

⇒ ・「言葉も、その内容も知っている」が最も多く8割以上。

○「交際相手からの暴力」（デートDV）の認知度

⇒ ・「言葉も、その内容も知っている」が最も多く6割。

○相談できる窓口の認知度

⇒ ・「知っている」が約4割、「知らない」が約5割。

○次の行為を「暴力」と思うか

⇒ ・「身体を傷つける可能性がある行為」が9割以上。

・「他の異性との会話やメールを許さない」、「大声でどなる」、「長時間無視し続ける」行為が約5割。

#### <DV被害経験>

○DVを受けた経験の有無

⇒ ・「経験あり」が約2割。

○被害経験ありと回答した方の受けた行為

⇒ ・「精神的暴力」が7割。

・身体的暴力が約5割。

○誰かに打ち明けるなど、相談の有無（被害経験のある方）

⇒ ・「どこにも相談しなかった」が最も多く約5割。

○相談しなかった理由（被害経験のある方で相談しなかった方）

⇒ ・「相談するほどのことではないと思った」が最も多く約4割、次いで「自分にも悪いところがあると思った」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「相談しても無駄だと思った」が約3割。

○DVを受けた後の対応（被害経験のある方）

⇒ ・「別れたいと思ったが、別れなかった」が最も多く約4割、次いで「別れたいと思わなかった」が約3割。

○相手と別れなかった理由（被害経験のある方で別れなかった方）

⇒ ・「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が最も多く約5割、次いで「経済的な不安があった」が約4割。

#### <DV加害経験>

○DVを行った経験

⇒ ・「経験あり」が2割弱。

○DVの具体的行為（加害経験のある方）

⇒ ・「大声でどなる」が最も多く約8割、次いで「平手で打つ」、「何を言っても長時間無視し続ける」が約2割。

#### <友人や家族などからのDVに関する相談>

○身近な人の中でのDV被害経験の有無

⇒ ・「いる」が約2割。

○相談を受けた後にとった行動（身近な被害者がいて相談を受けたことがある方）

⇒ ・「被害者の保護や、家を出ることを援助した」が最も多く約3割、次いで「どう対応してよいか分からず、何もできなかった」が約2割。

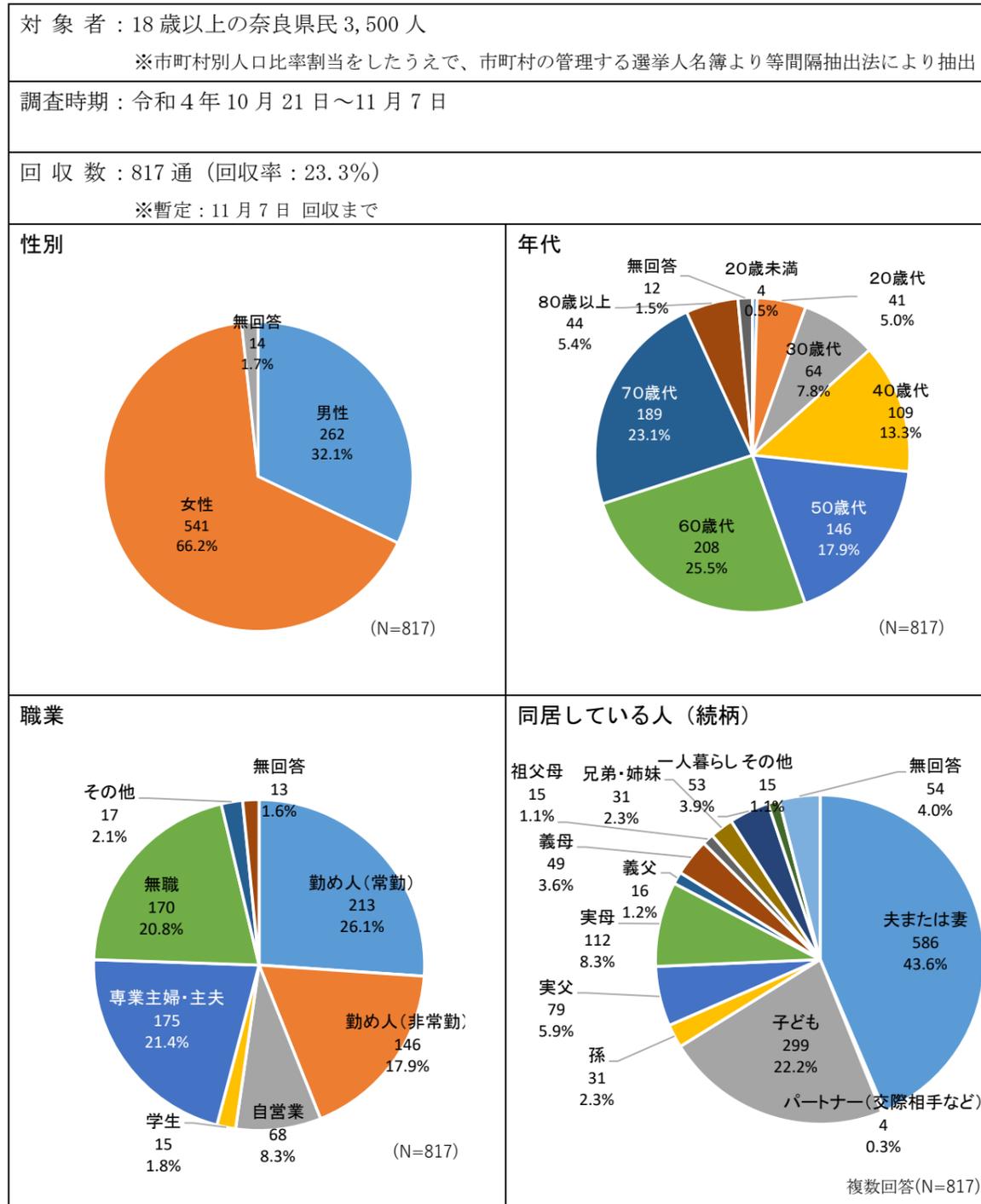
#### <その他>

○DV被害者への支援で重要だと思うこと

⇒ ・「加害者から離れて暮らすための経済的な支援」が最も多く約6割、次いで「夜間や休日など、いつでも相談できる窓口」、「地域の中で身近に相談できる窓口」「同性の相談員など、相談しやすい窓口」も約6割。

# 配偶者等からの暴力に関する調査結果

## 1. 調査の概要



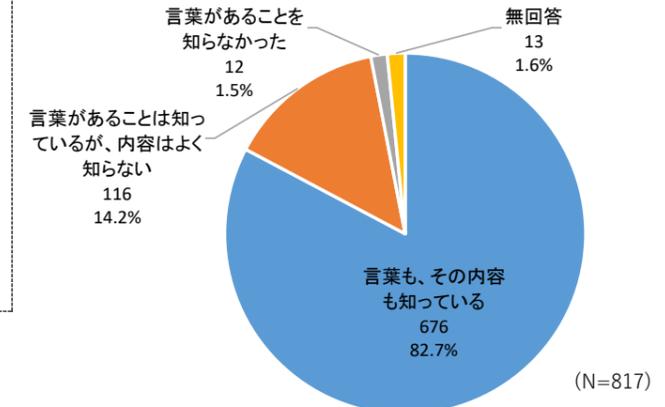
## 2. 調査結果

### 配偶者等からの暴力に関する意識について

問1 あなたは、「配偶者等からの暴力」(以下、「DV:ドメスティック・バイオレンス」)について、知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

- ・「言葉も、その内容も知っている」が最も多く8割以上であった。
- ・一方で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」、「言葉があることを知らなかった」は合わせて約2割であった。

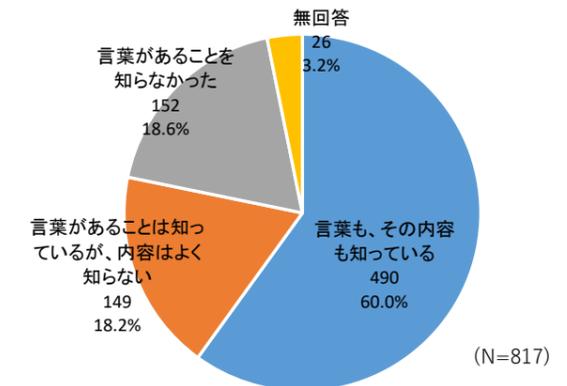
【H29 調査結果とほぼ変わらない】



問2 あなたは、「交際相手からの暴力」(以下、「デートDV」)について、知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

- ・「言葉も、その内容も知っている」が最も多く6割であった。
- ・一方で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」、「言葉があることを知らなかった」は合わせて約4割であった。

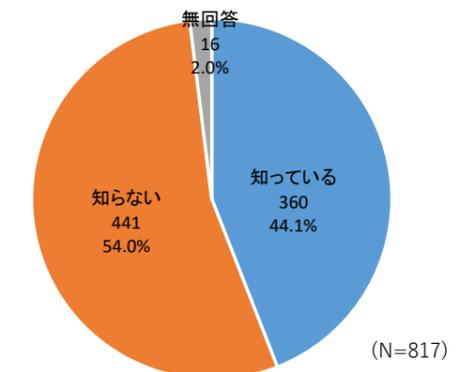
【H29 調査結果とほぼ変わらない】



問4 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

- ・「知っている」が約4割、「知らない」が約5割であった。

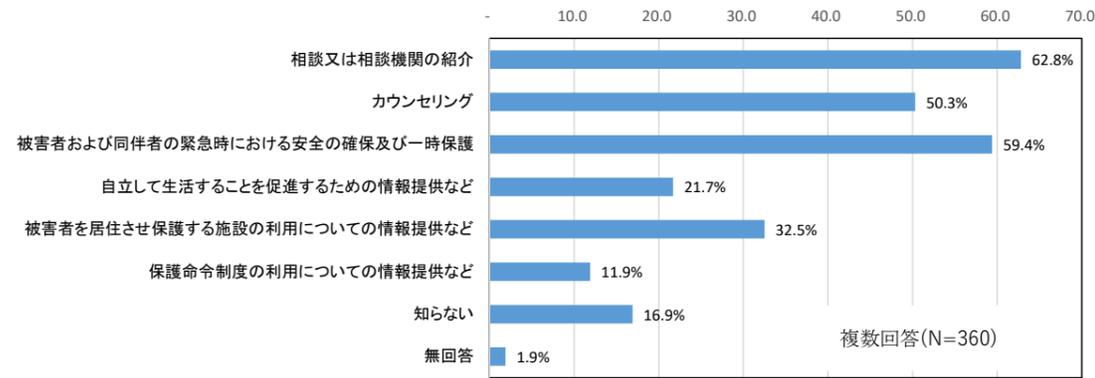
【H29 調査結果から、「知っている」割合が微増】



問4で「知っている」と回答した者

問6 相談した際に受けられる支援を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

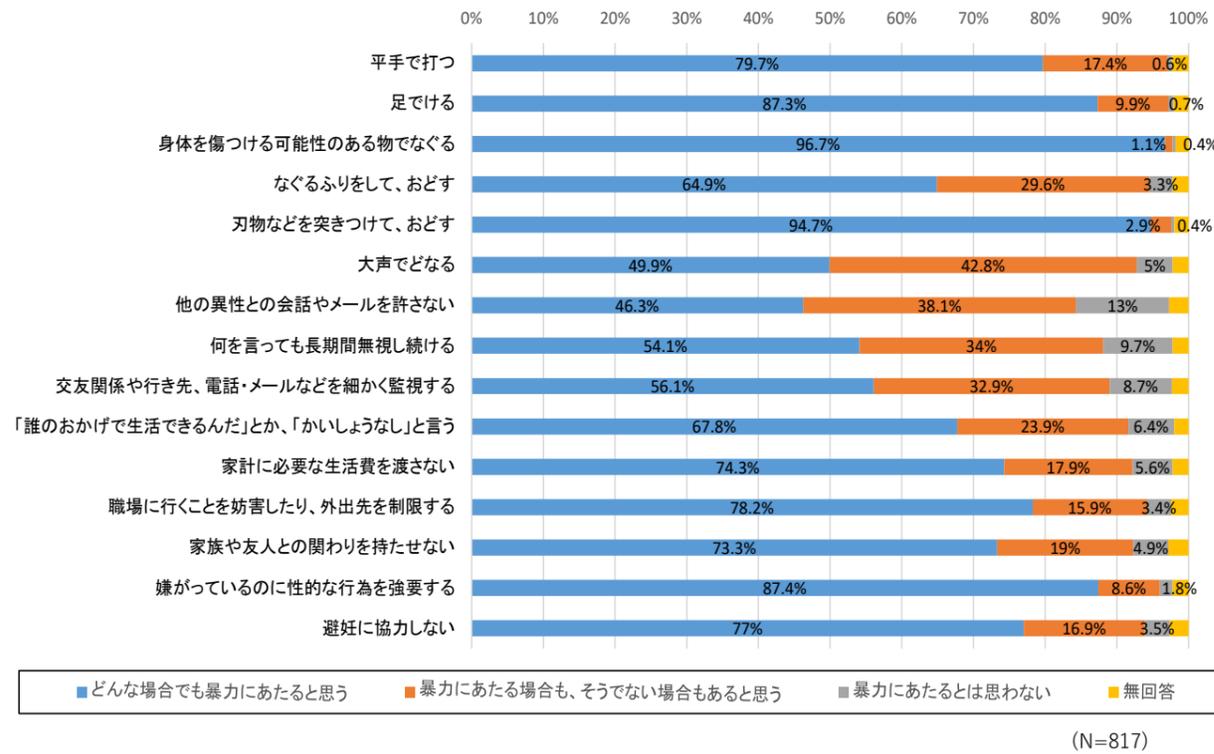
・「相談又は相談機関の紹介」が最も多く6割以上、次いで「被害者および同伴者の緊急時における安全の確保及び一時保護」が約6割であった。



問7 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを「暴力」だと思いませんか。(それぞれについて、あなたの考えに近い番号に1つずつ○)

※ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

・「どんな場合でも暴力にあたると思う」行為で最も多かったのは、[身体を傷つける可能性のある物でなぐる]であり9割以上であった。  
 ・「暴力にあたるとは思わない」行為で最も多かったのは、[他の異性との会話やメールを許さない]が最も多く約1割あった。次いで[何を言っても長期間無視し続ける]も約1割であった。



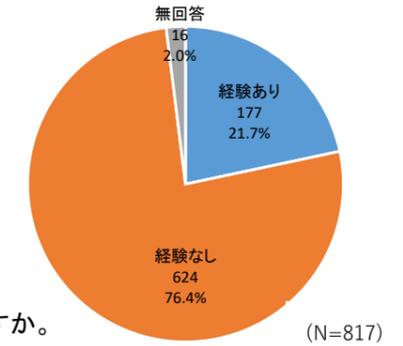
配偶者等からの暴力について

【被害経験について】

問10 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手などから問7のような行為を受けた経験がありますか。(あてはまるもの1つに○)

・「経験あり」が約2割、「経験なし」が約8割であった。

【H29 調査結果から、「経験あり」の割合が微増】

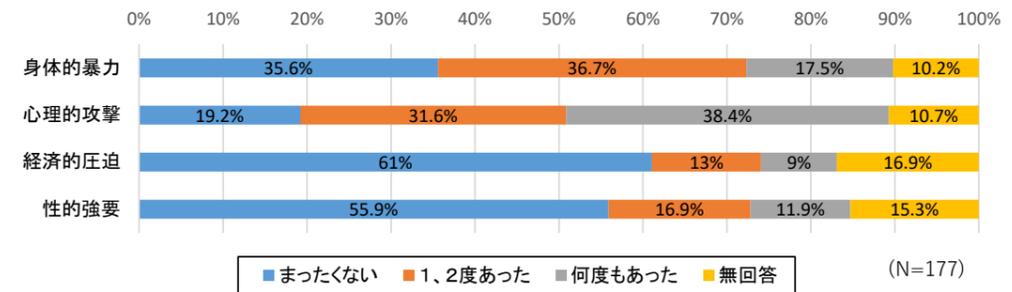


問10で「被害経験あり」と回答した者

問11 相手から、具体的にどのような行為を受けた経験がありますか。(それぞれについて、あてはまるものに1つずつ○)

・「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した人が最も多かったのは、[心理的攻撃]であり、7割であった。  
 ・次いで、多かったのは、[身体的暴力]であり、約5割であった。

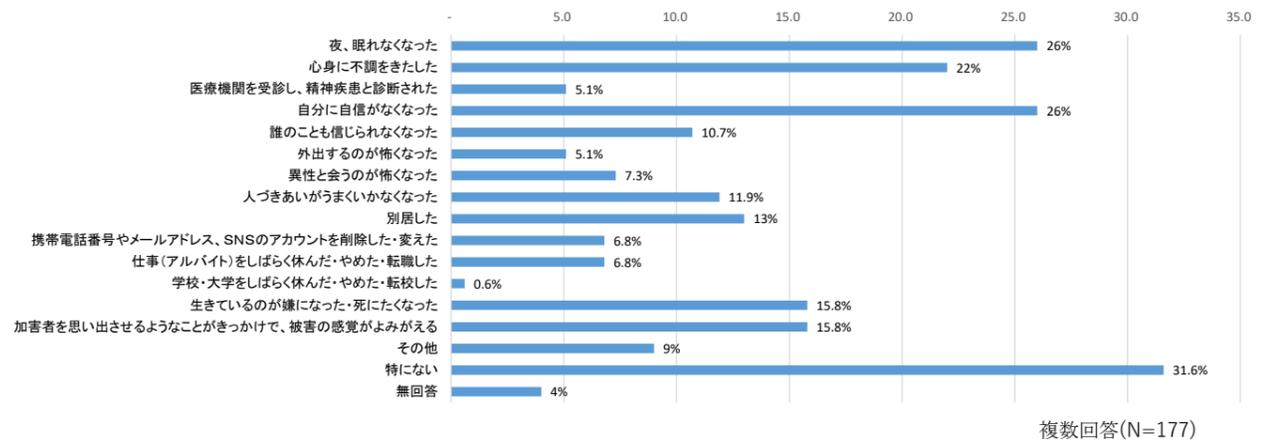
【H29 調査結果から、[身体的暴力]を受けている割合が微減】



問10で「被害経験あり」と回答した者

問12 あなたはこれまでに、相手から受けた問7または問11の行為によって生活が変わりましたか。(あてはまるものすべてに○)

・「特にない」が最も多いが、次いで「夜眠れなくなった」「自分に自信がなくなった」が約3割



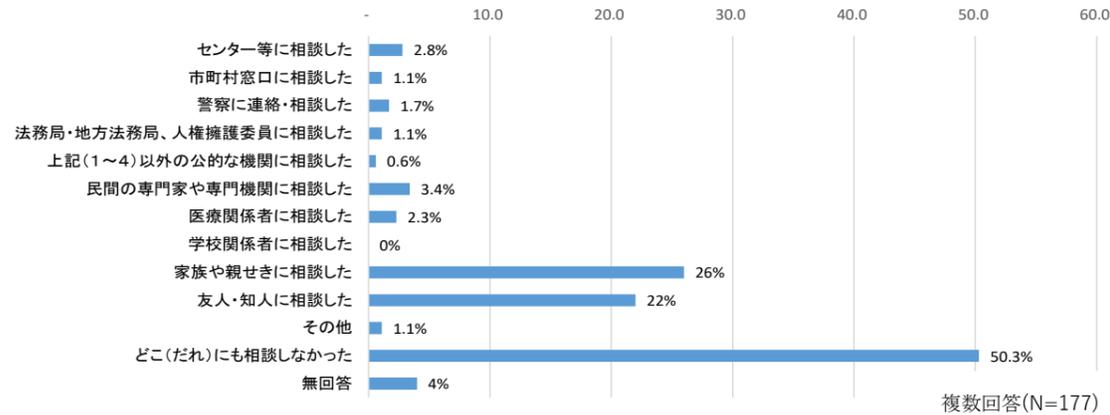
**問10で「被害経験あり」と回答した者**

問13 あなたはこれまでに、問11のような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

※センター等：配偶者暴力相談支援センター（中央子ども家庭相談センター）、高田子ども家庭相談センター、奈良県女性センター

・「どこにも相談しなかった」が最も多く約5割、次いで「家族や親せきに相談した」が約3割で「友人・知人に相談した」が約2割であった。

【H29 調査結果から、「どこにも相談しなかった」割合が増加（42%⇒50%）】



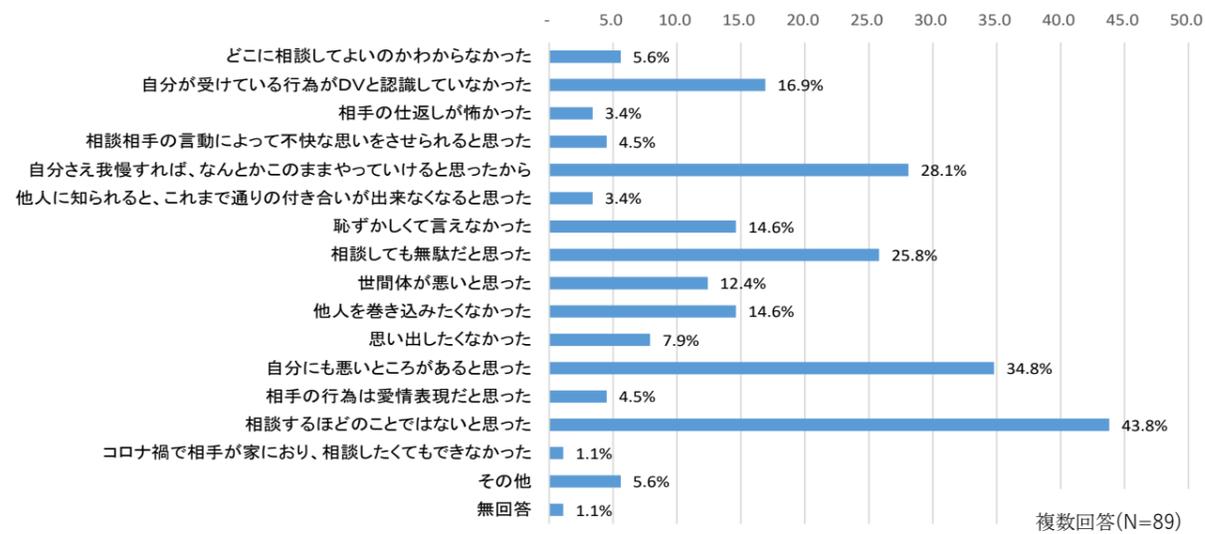
**問10で「被害経験あり」と回答した者**

**問13で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した者**

問14 どこ(だれ)にも相談しなかった方にお聞きします。どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

・「相談するほどのことではないと思った」が最も多く約4割、次いで「自分にも悪いところがあると思った」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「相談しても無駄だと思った」が約3割であった。

【H29 調査結果とほぼ変わらない傾向にあるが、「DVと認識していなかった」割合が減少（30%⇒17%）】

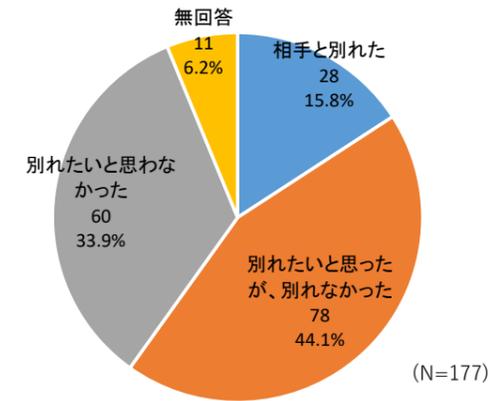


**問10で「被害経験あり」と回答した者**

問16 あなたは、相手から、問11のような行為を受けたとき、どうしましたか。(あてはまるもの1つに○)

・「別れたいと思ったが、別れなかった」が最も多く約4割、次いで「別れたいと思わなかった」が約3割で、合わせて約8割の人が別れていない。

【H29 調査結果とほぼ変わらない】



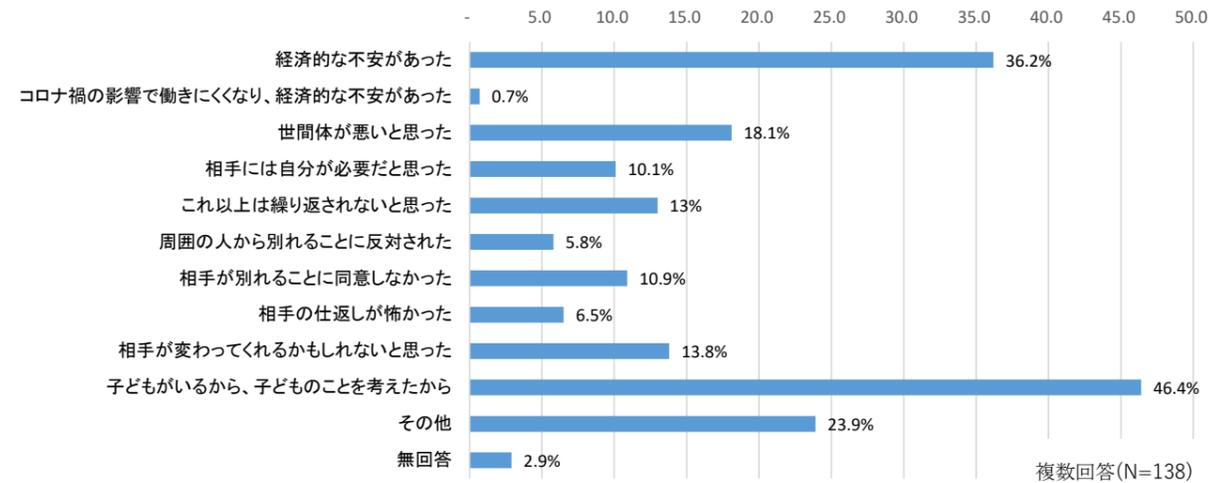
**問10で「被害経験あり」と回答した者**

**問16で「別れたいと思ったが、別れなかった」又は「別れたいと思わなかった」と回答した者**

問17 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

・「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が最も多く約5割、次いで「経済的な不安があった」が約4割であった。

【H29 調査結果では「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が最も多く約6割、次いで「経済的な不安があった」が約3割】

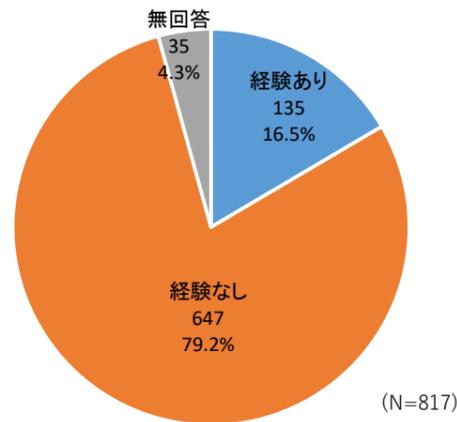


**【加害経験について】**

問 20 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手に対して、問7のような行為を行った経験がありますか。(あてはまるもの1つに○)

・「経験あり」が2割弱、「経験なし」が約8割であった。

【H29 調査結果から、「経験あり」の割合が微増】



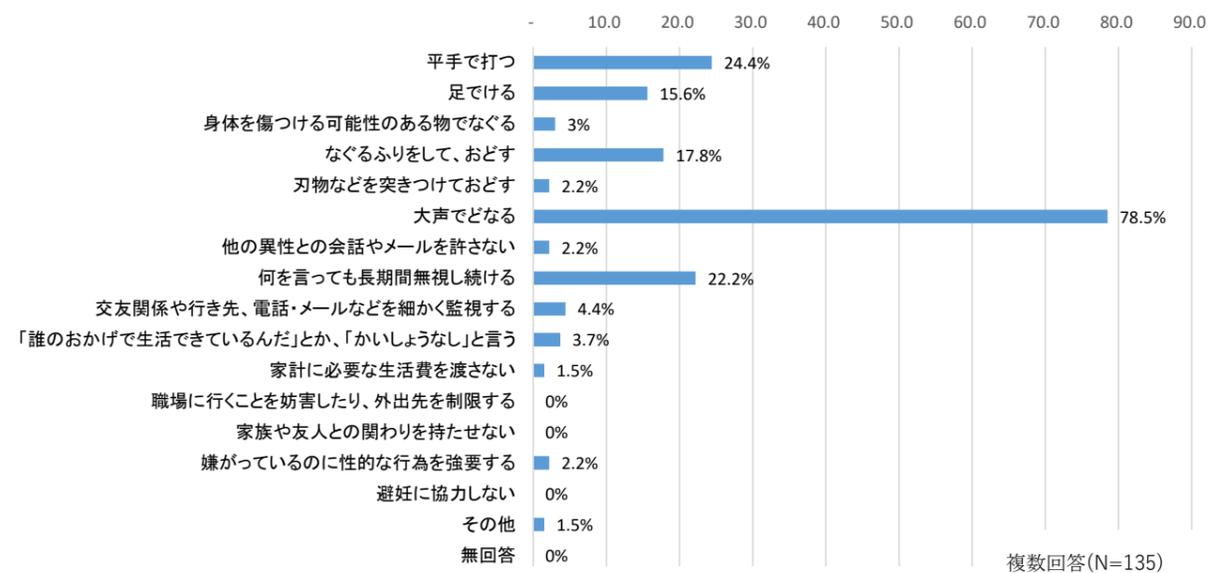
**問 20 で「加害経験あり」と回答した者**

問 21 相手に対して、具体的にどのような行為を行いましたか。

(あてはまるものすべてに○)

・「大声でどなる」が最も多く約8割、次いで「平手で打つ」、「何を言っても長時間無視し続ける」が約2割であった。

【H29 調査結果から、「身体的暴力」(平手で打つ、足でける)の割合が減少】



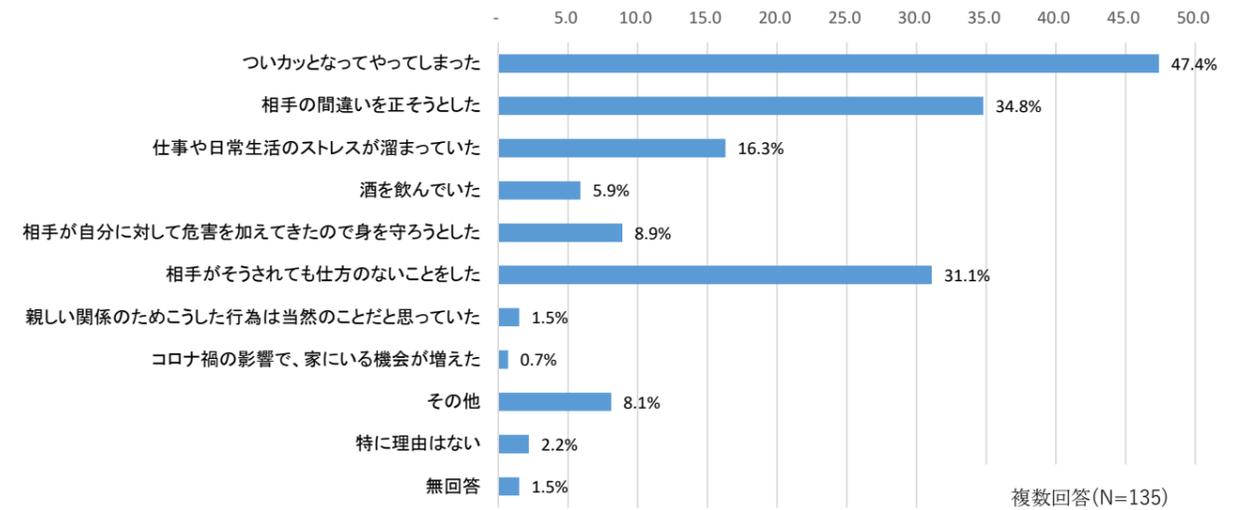
**問 20 で「加害経験あり」と回答した者**

問 22 あなたが、問 21 で選択したような行為を行った理由またはきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

・「ついカッとなってやってしまった」が最も多く約5割、次いで「相手の間違いを正そうとした」、「相手がそうされても仕方のないことをした」が約3割であった。

【H29 調査結果の傾向とほぼ変わらない】



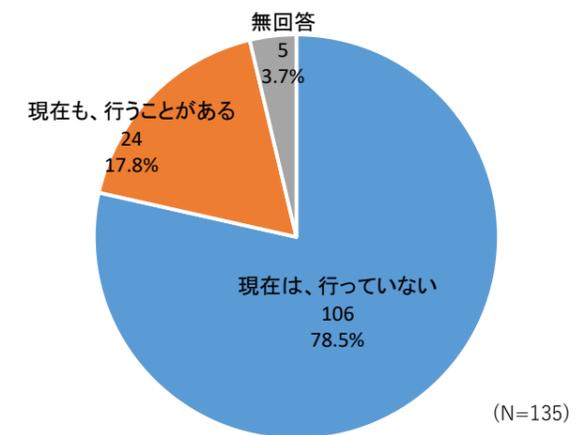
**問 20 で「加害経験あり」と回答した者**

問 23 あなたは、現在も、問 21 で選択したような行為を行っていますか。

(あてはまるもの1つに○)

・「現在は、行っていない」が約8割、「現在も、行うことがある」が約2割であった。

【H29 調査結果から、「現在は、行っていない」割合が微増】

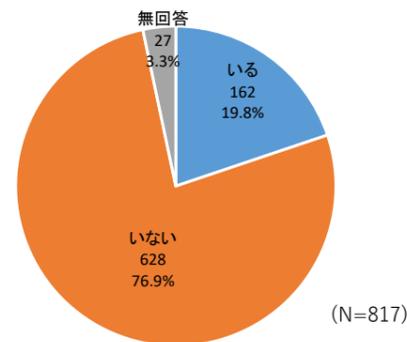


## 友人や家族などからのDVに関する相談について

問 25 あなたの家族、親戚、友人、知人など身近な人の中で配偶者や交際相手から問7のような行為を受けている人、もしくは過去に受けた人はいますか。(あてはまるもの1つに○)

・「いる」が約2割、「いない」が約8割であった。

【H29 調査結果とほぼ変わらない】

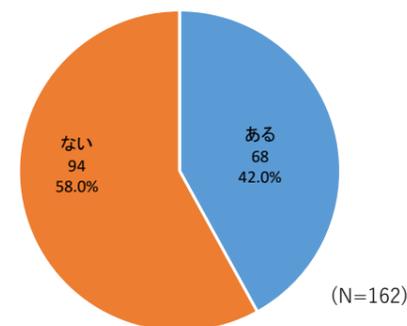


### 問25で「いる」と回答した者

問 26 あなたは、問7のような行為を受けている人から、相談を受けたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

・「ある」が約4割、「ない」が約6割であった。

【H29 調査結果とほぼ変わらない】

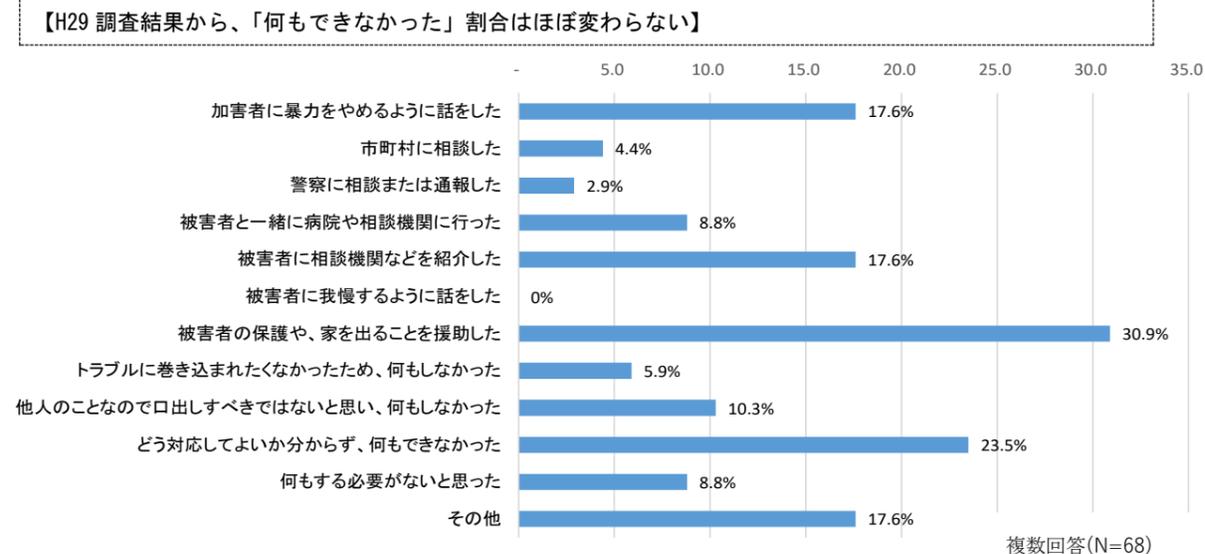


### 問26で「ある」と回答した者

問 28 あなたが、相談を受けた後にとった行動についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

・「被害者の保護や、家を出ることを援助した」が最も多く約3割、次いで「どう対応してよいか分からず、何もできなかった」が約2割、「加害者に暴力をやめるように話をした」、「被害者に相談機関などを紹介した」が2割弱であった。

【H29 調査結果から、「何もできなかった」割合はほぼ変わらない】

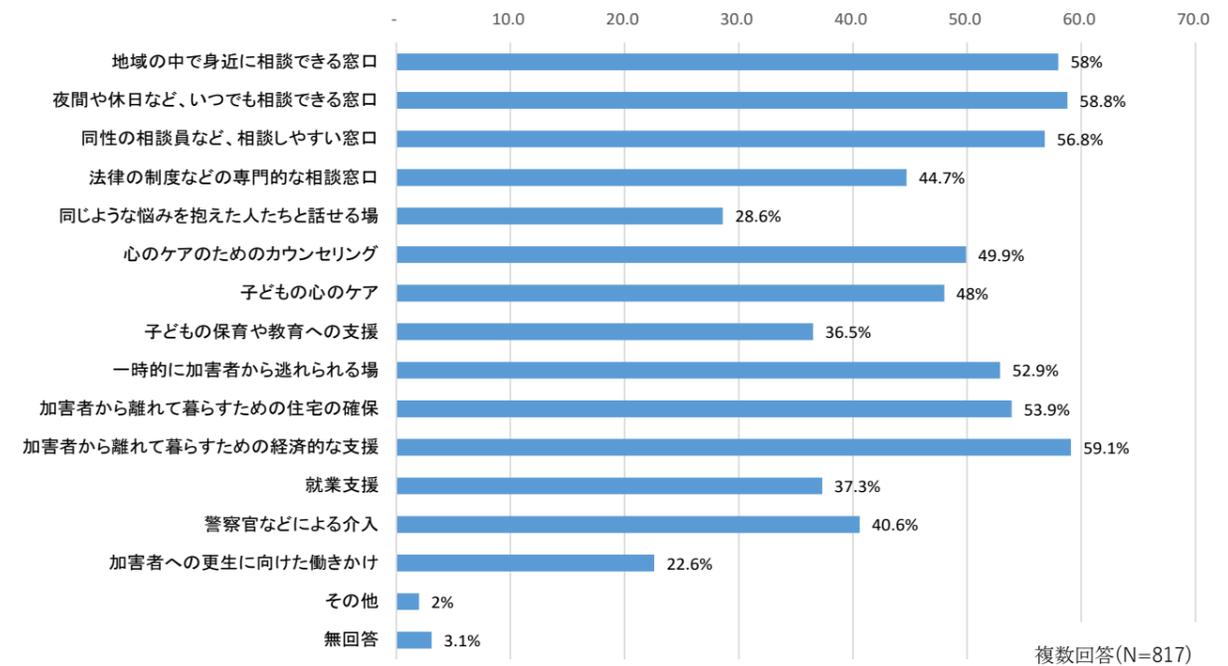


## その他

問 30 配偶者などからの暴力を受けた被害者への支援について、どのようなことが重要と思われますか。(あてはまるものをすべてに○)

・「加害者から離れて暮らすための経済的な支援」が最も多く約6割、次いで「夜間や休日など、いつでも相談できる窓口」、「地域の中で身近に相談できる窓口」「同性の相談員など、相談しやすい窓口」も約6割であった。

【H29 調査結果の傾向とほぼ変わらない】



問 31 あなたは、悩みや心配事(DVにかかわらず)があるとき、身近に相談ができる人がいますか。(あてはまるもの1つに○)

・「身近に相談できる人がいる」が最も多く6割、次いで「身近にはいないが相談できる人がいる」が約1割であったが、「相談できる人はいない」も約1割であった。

【H29 調査結果の傾向とほぼ変わらない】

